

## 第16回「やまだ塾」

昨日7日午後、八尾で「やまだ塾」を開催した。いつものように、ヴィーガン料理のランチをいただき、庭をゆっくりと散策した。1ヶ月で風景も変化していた。木々も色づき、初夏の雰囲気を感じさせた。

「こども食堂」の日であり、元気な声が聞こえてきた。先月オープンした会場横の駄菓子屋さんにも、お客さんが来ていた。だんだん地域に溶け込みつつあるようだ。八尾の若者たちにエールを送りたい。

塾では、まず私から前回(4月2日)以降を振り返りながら、ウクライナ戦争から沖縄問題、「大阪論」へと話題を提供した。資料は『おおさかの住民と自治』5月号に寄稿した「話題の本 維新の政治—『改革の幻惑』(『世界』3月号)」など。

討論の最初に、参加者から「大阪論」などに関わる何冊もの文献が紹介された。はじめて参加する人も含め、白熱した議論を展開した。話題提供の中で強調したのは、ウクライナ戦争に乗じた軍拡や核共有といった、「好戦的」な世論の高まりだ。

かつてないほど戦争への危機感を感じるが、今こそ「平和主義を礎」にすることが求められているのではないか。4日レポートで紹介した「急速に進む琉球弧の軍事要塞化」をもとに、復帰50年の沖縄の厳しい現実をどう考えるか。大阪のIRカジノに対する朝日・毎日・読売の社説を紹介して、IRカジノに対する厳しい論調、大阪の世論動向について、「住民投票を求める」署名活動のなかで感じたことなどを聞きたい、などと問題を投げかけた。

米軍基地が全国の7割を占める沖縄の現実、辺野古新基地や琉球弧の軍事要塞化などが議論となった。沖縄の歴史を振り返ること、とくに大阪から沖縄を考えることが大切だという意見が出された。大阪の多様性に関わる問題として、沖縄問題などに目を向けること、「大阪論」として示唆に富む指摘が多かった。今回も参加者から、学ぶことが多かった。来月の塾も楽しみだ。次回は6月4日を予定。

すこし早めに退出して、修理に出していたパソコンを取りに行った。じつは古いPCが動かなくなり、思案の末に修理に出した。きちんと直っていて、液晶パネルも交換してもらい見やすくなった。膨大な写真やレポート、原稿も再び利用できるようになり、ほっとしている。この間、新しいPCでレポートを書いていたが、写真をうまく取り込めず、使い勝手がよくなかった。今回は庭のきれいな写真も取り込み、レポートを書くことができた。新旧PCをうまく使い分けて、どんどん発信していきたい。

(2022年5月8日)

